

樟蔭学園報

Vol. 178

2018 Spring

くすのき

Kusunoki

樟蔭学園は創立100周年

100th

SHOIN GAKUEN
Established in 1917



樟蔭学園創立100周年記念式典

CONTENTS

祝 樟蔭学園 創立100周年記念特集

100年を振り返り、
次の100年に向け
決意新たに ①

●●●●さん
■ ■ ■ ■さん
▲▲▲▲さん

● WingBEAT! — 「堂々とした演技を披露 創立100周年記念映像に出演」 ⑤

● 樟蔭学園創立100周年記念グッズ紹介 ⑥

● こもれびの窓 — 母校への愛あふれる樟蔭同窓会 杉田 旬子さん ⑦

● 育むところ — 「本物に触れる学びが未来を切り開く女性を育てます」尾崎 幸子先生 ⑨

● NEWS — 「記念の年、コラボ企画が実現!」ほか ⑪

● Information — イベントのお知らせ ⑰

● FORUM — クラブ活動報告 ⑱

● リレー★コラム 水野 夏子先生 & STAFF@SHOIN 松下 有貴子さん ⑲



はばたけ、知性。





100年を振り返り、次の100年に向け

決意新たに

10月28日(土)、リーガロイヤルホテル大阪において樟蔭学園創立100周年「記念式典・祝宴」ならびに「祝賀会」を挙行了しました。記念式典・祝宴は来賓・学校関係者・卒業生を中心に約580人、祝賀会は保護者の方々と現教職員を中心に約300人もの皆様にお集まりいただきました。森眞太郎理事長は、これまで100年という長い歴史のなか、一貫した女子教育を積み重ねてきた想いと共に、支えてくださった皆様への謝意を表し、未来への決意を誓いました。

中学校・高等学校コーラス・ハーモニー部による校歌斉唱



リーガロイヤルホテル大阪「ロイヤルホール」

本日ここに樟蔭学園創立100周年記念式典を皆様と共に挙行いたしますことは大きな喜びであります。

文部科学省高等教育局私学部井上参事官様、大阪府教育庁向井教育長様、日本私立大学協会小出常務理事様、大阪府私学総連合会野田理事長様、その他関係各位のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。また、この度の100周年に際して同窓会、保護者会をはじめ学園内諸団体、関係取引先様、各方面より特別のご高配を頂き御礼申し上げます。

思えば本学園は大正、昭和、平成の激動する時代の変遷の中を発展しつつ、総合学園として着実な歩みを経て参りました。その基盤となるものは、創設者、森平蔵初代理事長、そして初代校長伊賀駒吉郎先生の女子教育への卓越した識見であり、加えるにその志の継承高揚に力を注いだ歴代の学園関係各位と、そしていつの時代も学園の理念に変わらぬ理解と支持をいただいた保護者、同窓生の皆様のご協力によるものと深く感謝する次第であります。

顧みれば大正6(1917)年、樟蔭高等女学校創設に際し、設立趣意書には当時既に中等教育の段階で激化しつつある受験勉強により受験生の心身に及ぼす影響を憂慮し、事態改善のために設備環境の整った教育施設、とりわけ女子校新設の必要性が記されております。このような時流を背景に、「充実した設備、優れた指導者、良好な教育環境を整えて、現代社会に対応し得る高い知性と豊かな情操を兼ね備えた女性の育成」を教育理念として掲げ、発足した樟蔭高等女学校は、先進的な施設設備と優れた人材に依って創立早々にして、その声価を確立しておりました。そして大正15(1926)年に樟蔭女子専門学校を開設して更に女子教育の振興に努め、その後昭和22(1947)年の学制改革を経て戦後の教育復興に貢献しつつ今日の幼稚園、中学校、高等学校、大学、大学院からなる総合学園に発展いたしました。その間の100年の歳月は、かつて大阪府布施村大字菱屋西と呼ばれた創立の地のどかな田園の景観を今日の人口50万を数える中核都市東大阪市の繁華な街並に変え、創立当時を偲ぶ木造校舎は時代と共に科学技術の進歩に対応する機能を備えた施設に姿を変えました。

現在学園の学生・生徒・園児は3700余名を数えますが、急激な規模拡張はとくに私学本来の特色が色あせる結果を招くとの声も聞かれるところであり、樟蔭学園では高等学校等への進学人口急増期にも教育の質の低下を招かぬように積極的な量的拡大を抑えて、施設設備の充実と教育内容の向上の方に意を用いて参りました。そのために本学園の規模は総合学園としては大きいとは申せませんが、今日世代を重ねて樟蔭で学ばれるご家族が少ないのは、創立以来不変の教育理念の下で長年培われてきた良き校風が変わらずに受け継がれている証しであると存じます。

本日の式典には3世代表彰のために34組のご家族の出席をいただいております。このような行事を行える樟蔭は幸せな学園であります。なぜならば、私は私学とは、そこに学ぶ者が次の世代にも自らの母校で学生生活を送らせたく思う、言わば卒業生の心の故郷であることを願う者であり、そこに私学としての特色



と価値が存在すると信ずるからであります。これからはもきめ細かい教育を通じて、温かく心の通う学び舎として、更に多くの世に亘る卒業生を送り得る学園たるべく力を注いで参ります。

21世紀に入り、20年が過ぎようとしています。社会の各方面に亘り将来の展望が難しい混沌とした転換期を迎えております。

大学関係者の間に、「2018年問題」という言葉があります。大学入学年齢である18歳の人口は、1990年以降減少しておりますが、大学進学率の上昇により、大学志望者は横ばいの状態が続きましたが、2018年よりは、大幅な減少が続きます。2017

年119万人から2040年88万人となり、社会構造の大きな変化、就業構造の変化の中で、大学に求められることは、イノベーションを創出し、生産性を向上させることのできる高い能力を有する人材の育成であります。そのために今後大学においては教育研究の基盤強化に向けて教育システムの改革が求められます。いずれも過去に例を見ない新たな状況への対応に迫られております。

このような社会において、とすれば、女性に対して男性同様の在り方を要請される潮流も感じられます。国際化の進展と共に様々な摩擦の増大や、或いは過度の情報化によって人間疎外の懸念も現れる社会において、樟蔭が見据えていくのは、女性であることを一つの特徴として尊重し、各人が有する長けた能力の伸長をはかる教育を展開するということです。

それは、相手を想う心や共に支え合う協調性と次世代を育成し新しい社会を共創していく力を育てていくことでもあります。私学は今こそ自らの伝統に帰しつつも現実を踏まえてわが道を拓かなければならないということでもあります。そのためには今後樟蔭においては自立自在の気概を以って、建学の理想の下に特色ある総合学園として各部門の意思の疎通を一層密にして一貫教育を基軸とした教育内容の向上、充実と経営基盤の安定に努め、併せて将来の発展を期する構想を推進する上で高等教育部門など各部門に亘って可能と思われる新たな選択肢の検討も必要でありましょう。そして学園発祥の地を中心として永年に亘り培った地縁、人脈を尊重し地域に根ざした研究・教育の場として地域貢献、社会貢献を通じて更に広く社会に対する奉仕と貢献を深めて参りたいと存じます。

また、今回の100周年に際し、各方面より寄せられました寄付金の中より、次の100年に向け、社会に貢献できる女性の育成のため、「100周年記念奨学金」を創設いたします。

100年に亘り学園の歴史に刻んだ女子教育の実績は、財貨を以って量りえない貴重な精神的遺産であります。同時にその伝統を継承する者には、これを守って発展させる責任を負っております。伝統を守ろうとする姿勢はともすれば惰性に陥りやすく、守成は草創より難事であるとゆわれる所以ではありますが、樟蔭学園の歴史の新たな里程碑に向かつての出発に際して「不易流行」を心に刻んで伝統の上に創造の新風を吹き込み、着実な前進に努める所存であります。

ここに改めて平素のご支援に感謝し、併せて今後も変わらぬご理解ご協力をお願いする次第であります。以上を以って式辞といたします。

平成29年10月28日

創立100周年記念式典 式辞

理事長 森 眞太郎